SBIC® West Japan　- News Release -

２０２４年4月１７日

各　位

大阪中小企業投資育成株式会社
代表取締役社長　小 林 利 典
（大阪市北区中之島３－３－２３）

投資先企業景況アンケート結果の発表

下記の通り、当社投資先企業に対して景況アンケートを実施いたしました。

結果については次頁以下をご覧ください。

調 査 時 点：２０２４年3月中旬

調査対象先　：当社投資先企業１，１８９社

回　答　数　：６０９社

回　収　率　：５１．２％

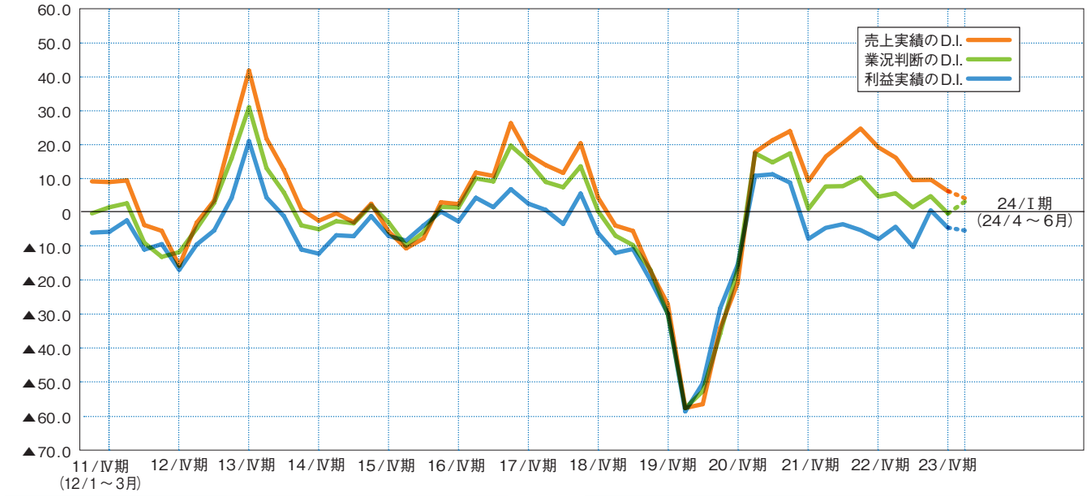
◇本発表に関するお問い合わせ先
事業ソリューション部
小久保　宏昭
電　話　：　06-6459-1700
メール　：　pr@sbic-wj.co.jp

・投資育成® および SBIC® は中小企業投資育成三社の登録商標です。

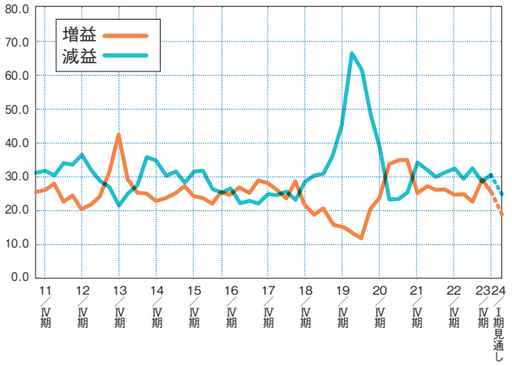
各指標は悪化するも、先行き景況感の改善を見込む

投資先企業の2023年度第4四半期景況アンケートによると、2024年1～3月は売上実績、業況判断実績、利益実績の各D.I.指標は悪化した。利益実績D.I.は回復を見せた前四半期からは一転して再びマイナスに転じた。次期は、大企業に比べて人手不足が一層深刻な中小企業にとって賃上げが先行する展開が続くと見られるものの、設備投資の活発化など需要回復への期待感等から先行きの景況感は改善する見通しとなっている。

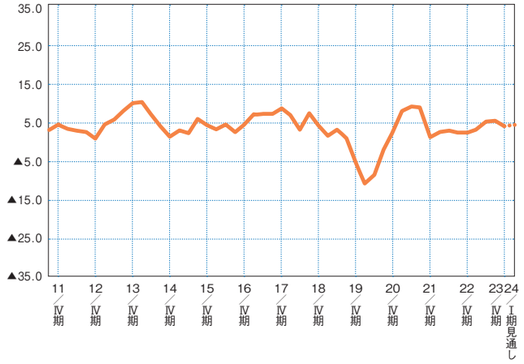
売上及び利益実績・業況判断のD.I.（前年同期比）の推移



利益実績の増減益割合（前年同期比）の推移



資金繰り実績のD.I.（前年同期比）の推移



❶ 2024年1月～3月の売上実績D.I.（増収企業割合－減収企業割合）は前期の9.8から6.6へ、利益実績D.I.（増益企業割合－減益企業割合）は0.5から▲4.9へ、業況判断実績D.I.（好転企業割合－悪化企業割合）は4.6から▲0.5と、各D.I.指標は悪化した。

物価上昇による需要の減少やコストの増加、人手不足の深刻化が影響しているとみられ、利益実績D.I.は▲5.4ポイントの減少となり、回復を見せた前四半期からは一転して再びマイナスに転じた。業況判断実績D.I.は▲5.1ポイント減少し、2020年度の第4四半期以来3年ぶりにマイナスに転じた。売上実績D.I.はプラス圏を維持するも▲3.2ポイントの減少と低下傾向が続いている。

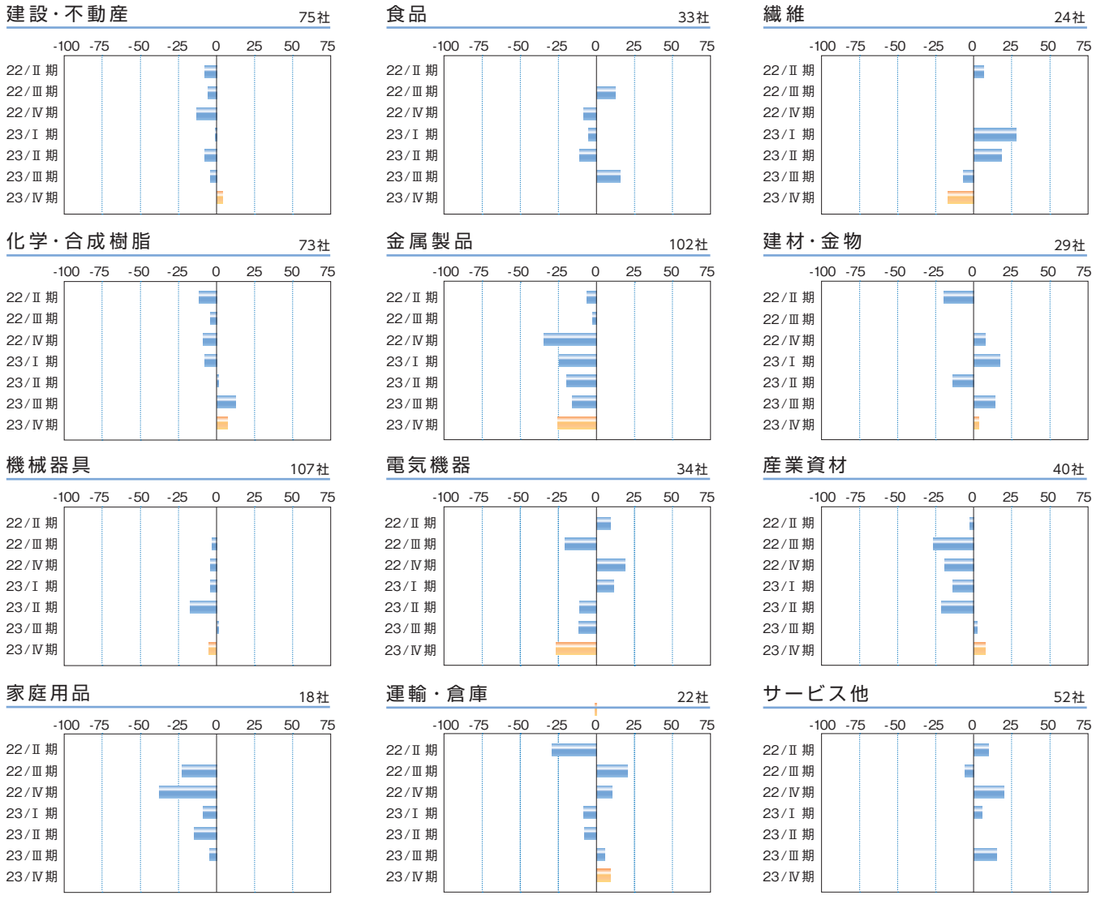
❷ 利益実績D.I.を業種別推移表で見ると、2024年1～3月は建設・不動産がプラスに転じ、5業種がプラス圏となった一方で、機械器具がマイナスに転じ、4業種がマイナス圏となった。

❸ 2024年の4～6月期の見通しD.I.は、2024年1～3月期と比較して売上実績D.I.が6.6から見通し3.3へ、利益実績D.I.が▲4.9から見通し▲5.8へ、業況判断D.I.が▲0.5から見通し2.7となり、業況判断D.I.は改善を見込んでいる。また利益実績の増減割合で見ると、増益を見通す企業は7.2ポイント減少の18.7%へ低下し、減益を見通す企業は6.4ポイント減少の24.5%へ低下した。

なお、3月調査の日銀短観によると、一部業種で価格転嫁が進んだものの、品質不正による一部自動車メーカーの生産停止が影響し、大企業製造業の業況判断D.I.は前回調査から悪化し、4四半期ぶりに景況感の悪化が示された。

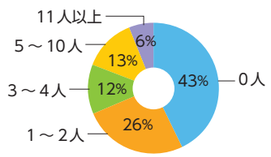
自動車生産回復の遅れや海外経済の減速、原材料の調達懸念など先行きには不透明感を抱えている。大企業に比べて人手不足が一層深刻な中小企業にとって、賃上げが先行する我慢の展開が続くと見られるものの、設備投資の活発化など需要回復への期待感等から先行きの景況感は改善する見通しとなっている。

主要業種別利益実績のD.I.（前年同期比）の推移



新卒採用の状況についてのアンケート結果

●2024年春の新卒採用の実績について

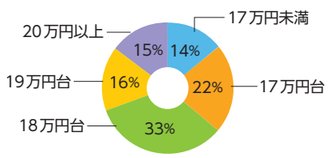


（有効回答数：598社）

賃上げ機運の高まりや、若年労働力人口の減少に伴う新卒採用競争の激化など、新卒採用をめぐる状況は大きな転換点にあります。

日本商工会議所が2024年1月に発表した新卒採用の動向調査によると、新卒採用を実施した企業は35.8%、うち計画通り採用できなかったと回答した企業は74.0%と前年同月調査から6.4ポイント増加しています。採用活動にあたって取り組んだ事項としては「初任給の引き上げ」を実施した企業は50.2%と半数を超えました。このほか「会社説明会や合同説明会への出展」、「インターンシップや職場体験、社員との交流会の開催」などに取り組むものの、「採用活動を実施したが手応えが全くない」「学生からの問い合わせはほとんどなく、今後も状況が変わる見込みはない」といった悲痛な声もあがっています。

●高卒の初任給について



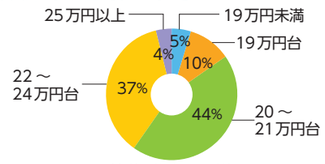
（有効回答数：477社）

そこで今回は、2024年春の新卒採用の実績と高卒および大卒の初任給額についてのアンケートを実施しました。

2024年春の新卒採用の実績については、「0人」が43%、「1～2人」が26%、「3～4人」が12%、「5～10人」が13%、「11人以上」が6%となりました。そもそも新卒採用をしていない企業を含めて、採用実績がなかった企業が4割強を占め、採用実績が5人以上の企業は2割弱に止まっています。

高卒の初任給については、「17万円未満」が14%、「17万円台」が22%、「18万円台」が33%、「19万円台」が16%、「20万円以上」が15%となりました。「18万円台」が3分の1を占める一方で、18万円未満が36%、19万円以上が31%とばらつきもみられます。

●大卒の初任給について



（有効回答数：514社）

大卒の初任給については、「19万円未満」が5%、「19万円台」が10%、「20～21万円台」が44%、「22～24万円台」が37%、「25万円以上」が4%となりました。「20～21万円台」と「22～24万円台」を合わせると、約8割の企業が初任給を20万円台前半に設定しています。

大手を中心に初任給を大幅に引き上げる企業が相次ぐ中、今後の中小企業の動きが注目されます。